



目次

TNVNホームページをリニューアルしました 大滝 敦史	1
寄稿 生活者としての外国人等に対する日本語教育の推進 文化庁国語課地域日本語教育推進室 北村 祐人	2
コロナ禍の中 ボランティア日本語教室 その後	3

紙上講座 気になる敬語の使い方3 金子 広幸	4,5
ZOOM IN 一般財団法人 東京都つながり創生財団	6,7
Information 総会報告	
Nice to Meet You 明生日本語会	8



TNVNホームページを リニューアルしました

2021年度プロジェクトのひとつの成果として、
TNVNホームページをリニューアルしました。
URLは <https://www.tnvn.jp/> です。



TNVNホームページの歴史

TNVNの最初のホームページが作成されたのは割と古く、1996年10月のことでした。インターネットを利用した日本語教育のあり方を研究しているグループ「日本語プラザ実験室」のホームページにTNVNの活動情報や会員団体の情報を掲載しました。

このホームページは「日本語プラザ実験室」に間借りしているものだったので、1997年3月にTNVNとしてのホームページを開設しました。

その後、2003年7月に今のtnvn.jpというドメインを取得し、リニューアルを何回か行い、今に至ります。最後にリニューアルしたのは2008年9月でした。

プロジェクトの検討経緯

まず、どんなところに課題があるか、検討を始めました。

- (1) スマートフォンから見にくい
- (2) 暗号化通信に対応していない
- (3) 双方向の情報交換ができるようにしたい
- (4) 所属する会員団体にも有用な情報を見に来てもらえるようにしたい

(1)、(2) については技術的な課題です。最後にリニューアルしたのは14年も前のことで、スマートフォンからのアクセスは想定していませんでした。現在、スマートフォンからのアクセスは全体の6割を占めています。また、2018年7月にはGoogle Chromeで暗号化されていないホームページにアクセスすると警告を表示するようになりました。これらの課題の解決を必達目標としました。

(3)、(4) についてはアンケートを取り、会員の皆様からたくさんのご意見をいただきました。しかしながら、2021年度中に意見をまとめることができませんでした。2022年度も引き続き検討してまいります。

コンテンツ

現在のTNVNホームページの主なコンテンツは以下の通りです。

■ ボランティア日本語教室ガイド

都内を中心に活動しているボランティア日本語教室を掲載しています。グループ名・路線・地域・開催曜日／時間帯などで検索できます。また、連絡先にメールアドレスが登録されている場合は、直接お問い合わせできるようになっています。

教室ガイドの情報が古い場合は、お問い合わせフォームから新しい情報をご連絡ください。

■ ニュースレター

過去に発行されたニュースレター「TNVNネットワークニュース」をPDFで公開しています。

■ お知らせ

TNVNからの報告・お知らせ・情報紹介等の掲載をしています。

■ イベント掲示板

日本語ボランティアや国際交流に関する情報を会員・非会員にかかわらず自由に書き込んでいただける掲示板です。ボランティア募集・学習者募集・地域でのイベントなどの情報がありましたら、こちらに書き込んでください。

さいごに

今回のリニューアルではコンテンツの見直しはしませんが、会員向けのコンテンツを提供する土台は出来上がりました。TNVNホームページにどのようなものがあったらよいか、皆さまのご意見を webadmin@tnvn.jp までお寄せください。

(大滝 敦史)

生活者としての外国人等に対する 日本語教育の推進

寄稿

北村 祐人

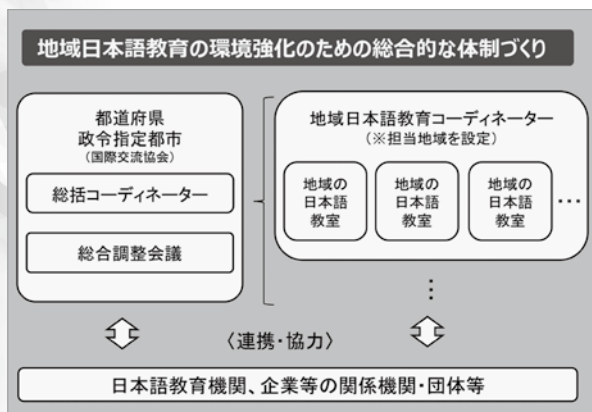
文化庁国語課地域日本語教育推進室

我が国の外国人数は約276万人（令和3年度末）となっており、過去30年で約3倍に増加し、日本語学習者も令和元年度には約27万人にまで増えてきました。ここ数年は新型コロナウイルス感染拡大による入国制限等の影響で、外国人数の伸びは鈍化しているものの、長期的には増加傾向が予想されます。

政府としては、外国人等との共生社会の実現に向け、「外国人材受入れ・共生のための総合的対応策」（令和4年度改訂）を示しています。また、その他の動きとして、「日本語教育の推進に関する法律」（令和元年6月）が公布・施行されるなどしています。こうした背景のもと、文化庁でも、外国人が生活の場で円滑にコミュニケーションをとることができるよう環境を整備するため、日本語教育の充実を図ることとしています。具体的には、①日本語教育の全国展開・学習機会の確保、②日本語教育の質の向上を目指して施策を展開しています。

①日本語教育の全国展開・学習機会の確保については、「外国人材受入れ・共生のための地域日本語教育事業」を展開し、都道府県・政令指定都市等による「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進」を令和元年度より補助事業を通じて支援しています。

具体的には、域内の地域日本語教育における「総合調整機能」として、有識者による「総合調整会議」を設置すること、その意思を踏まえた日本語教育の体制を実行する「総括コーディネーター」や「地域日本語教育コーディネーター」を配置すること、域内の市区町村や日本語教育機関等の関連機関と連携して日本語教育を実施するなどを支援しています。現在は、全国の48の都道府県・政令指定都市等を支援しており、全国にこの「体制づくり」が広がってきています。



図表 地域日本語教育の総合的な体制づくり推進の在り方(例)

日本語教室がない市区町村（空白地域）に対しては、「日本語教室立ち上げ」の支援も行っています。

全国の空白地域に日本語教育等のアドバイザーを派遣して、現地での日本語教室立ち上げ及び自立を促しており、これまでに約25市町村の日本語教室立ち上げ事例を創出してきました。

また、空白地域には日本語教室を何らかの理由で立ち上げられない市区町村もあります。そういった地域に住む外国人を対象に、生活に根差した日本語が学べるよう日本語学習サイト「つながるひろがる にほんごでのくらし」（通称：つなひろ）を提供しています。英語・中国語（簡体字）・ベトナム語等をはじめとする我が国に住む外国人が多く用いている言語を中心に16言語で運用しています。うち、令和4年6月には昨今のウクライナ情勢を踏まえて、ウクライナ語及びウクライナでも使用されているロシア語の2言語を追加しました。



図表 日本語学習サイト「つながるひろがる にほんごでのくらし」（通称：つなひろ）

②日本語教育の質の向上については、地域日本語教育コーディネーターや「生活者としての外国人」に指導する日本語教師、日本語学習支援者等を含む日本語教育人材に向けた研修を全国で展開する事業や、「日本語教育の参照枠」という日本語学習・教授・評価のための枠組みを活用した教育モデルを開発する事業等に取り組んでいます。特に、現在は「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案の改定を行っています。その中で、現在、日本語教育の参照枠を踏まえた「生活Can do」を開発中です。これにより、日本に住む外国人が日常においてどのような「生活上の行為」を求められるか例を示し、より地域における日本語教育が推進されるよう取り組む予定です。今後も生活者としての外国人等に対する日本語教育施策の動向について御注視ください。

ボランティア日本語教室 その後

本紙114号（2021.11.12）では活動状況やオンライン支援の問題点などについてアンケートを実施、報告しました。その時は第六波のピークから感染者数は減少しつつも、依然重症化リスクや、致死率が高い状況でした。そのため、対面での開催が難しく、オンラインによる活動を余儀なくされていました。

年が明けると、感染率は高いが、重症化リスクが低い変異株に変わりました。また、ワクチン接種の進捗でコロナに対する生活様式も少し変わってきたと思います。そのような状況の中、対面での活動を再開した教室もありました。そこで、活動を休まず継続している、また再開した教室に「教室活動で困ったこと・気づいたこと」についてお尋ねしました。

【教室活動】

コロナ禍で多くのボランティア日本語教室が休止になりましたが、中には支援者相互の協力により教室の休止日を少なくして、学習者に貢献した教室もありました。

そして、コロナ禍3年目ともなると、マスク着用や手洗い、手指の消毒、三密を避けるなどの習慣が身につくようになりました。再開を目指した教室では「いつ、どのような手段」で再開するかという判断、決定が非常に難しかったとのこと。他方、交流イベントの開催は依然として難しいという問題もあります。

【学習者への支援】

対面での支援ができなくなった多くの教室で、オンライン支援を開始しました。オンライン支援は帰国したり、引越したりした学習者も参加できるという、よい面があります。しかし、初対面の人や初級者の場合はオンラインでの支援は難しいと思われます。オンラインでは学習者との細やかなやり取りが思うようにいかず、やはり対面活動が日本語支援には一番適していると、改めて確認できたという教室も少なくありません。

コロナ禍で休止している教室が多いためか、いくつかの教室には外国人からの問い合わせが予想以上に増えたそうです。問い合わせが増えた教室では、感染防止もあって、一人の支援者が対応する人数を制限したために、不本意ながら断らざるを得ないケースもありました。

【支援者】

かなりの支援者がZOOMを使えるようになり、全員ミーティングの開催、情報共有、学習支援記録の共有など、ITを活用した効率的な運営や活動ができるようになった教室が増えました。

さらに、オンライン支援の講習会で、新たなスキルを得て、支援の幅が広がったことは、若干逆説的な言い方になりますが、コロナ禍であったからこそできたことだと思います。その一方で、Wi-Fi環境の問題や、支援者のITスキルや知識による活動の格差も生じており、オンラインが万能ではないこともうかがわれます。

コロナ禍が長引くにつれ、支援者側にも影響がありました。コロナに「感染しない、させない」ことが強いストレスになったり、「長い活動休止」のため、やる気が失せた支援者もいました。そのために、活動をやめる支援者もいましたが、新たに参加する支援者もいて、全体的には人数はあまり変わらなかったという教室もあります。

支援者同士の意思疎通が悪くなり、コミュニケーションの大切さに気付いたという意見も寄せられました。これはボランティア日本語教室が「学習者のための教室」としての「場」だけではなく、支援者同士も活動の中でお互いに学び合う交流の「場」であるということを再確認させる意見であり、我々支援者にとって大きな収穫です。

ボランティア日本語教室の目的の一つに、「居場所になる」ことがあります。それは、外国人の「居場所」であると同時に、支援者の「居場所」でもあることを心に留めておきたいと思います。

気になる敬語の使い方3

日本語教師 金子広幸

紙上講座

この連載では、「気になる敬語の使い方」と題した回が今までに2回ありました。そちらでは主に、敬語の表現の揺れについてでしたが、今号では現実社会のいろいろな場面で敬語が使われていることにフォーカスしてお話を進めようと思います。

私たち日本語教師は、周囲の日本語の現状を把握することから研究を始めますから。

■小さいレポート

私の大学のビジネス日本語のクラスでは「小さいレポート」と銘打って、待遇表現を観察する小報告を書いてもらっています。学生は、敬語を使うチャンスに恵まれていないので、あえて周囲の状況を意識して観察、その様子を一文にして提出します。

来日できた留学生たちは、周囲は全て日本語で、環境にも恵まれています。昨今コロナでオンライン参加の学生がいたので、そのレポートの対象範囲は、テレビの番組やアニメ、映画、動画などで触れたものも含められるように配慮しました。

これが予想外の展開で、いろいろなところで敬語を始めとする待遇表現の例を拾ってきてくれます。

いくつか例をお示ししましょう。

まず目立つのはアニメーションの中に登場する「敬語系キャラ」と言う登場人物のことです。秋葉原でよく見るメイドさんや執事役のような感じで、「ご主人様 おかえりなさいませ。おふろになさいますか」とか言うキャラクター、また女の子のグループの中でも良家のお嬢様ふうな言葉遣いのキャラクターがいます。アニメーションのファンだと、声のアテレコのようにその登場人物の言い方そのものを真似できる日本語学習者もいます。

もうひとつ臨場感溢れるのはこの例。

「毎度おなじみちり紙交換の●●屋がお邪魔しております。ご家庭でご不要になりました、冷蔵庫・テレビ・ラジカセなどはありませんか？ちり紙と交換させていただきます。壊れていても構いません。車が通り過ぎませんうちに、どうぞお早めにお声掛けくださいますようお願い申し上げます。」

確かに、敬語満載ですね。やや過剰と言えるほどです。

学生たちが住んでいる寮のそばをちり紙交換の車が通るらしく、そのエンドレスの録音を聴き取ってきてレポートのテーマにした人がいたのです。学生たちが真剣にその宣伝文句を再現しようとしているのを見て、私は吹き出してしまったのですが、確かにこれは好例ですね。

その他にも、時期にもよりますが、選挙演説にもやや過剰と言えるほどの敬語が使われていて、「特別な言い回しがたくさんある」と、学生たちは感心していました。

■かんたん尊敬語

ある時私は人ごみの中で大切な定期入れを落としてしまったんです。すると後ろから爽やかな声で「落とされましたよ」と言われたのです。これもちゃんと尊敬語ですよ。

尊敬語の体系の中には

- 1) お/ご〜になります お/ご〜ください
 - 2) いらっしゃいます めしあがります などの特別な形
- の他に、あまり目立ちませんが
- 3) 一般動詞の尊敬形
- と言うものがあります。

「先生がこの本を書かれました」「今朝の新聞を読まれましたか」「どちらまで行かれますか」

がその例ですが、

この3)は、1) 2) に比べると丁寧さの度合いがやや低く見られてしまうのか、あまり尊敬語として機能しているとは見られていないようです。しかも

- 1) お読みにになります→お読みください
- 2) めしあがります→めしあがってください

などは存在するのに

読まれます→読まれてください
とは言いません(クラスでは「だめ」と教えています)。この「れる・られる」の形には「〜てください」がつかないんですね。

それでも、東京でビジネスパーソンをしている20代30代の人たちはこれらをよく使っています。

「こちらで準備されますか」「会場に入られたらご連絡ください」「こちらに向かわれるときお電話ください」

「帰宅されてからこの袋を開けて召し上がってください」「コーヒー飲まれます?」…

上記の1) 2) に比べると口頭語の要素が強いのか、文字にして書くとやや奇異な感じがしますが、話し言葉としては実によく使っています。

拙著『新にほんご敬語トレーニング』で、この「一般動詞の尊敬形」をどんな名前にするか、とても迷いました。「いっばんどーしのそんけーけー」だと、鶏が鳴いているようで、学習者には難しいと思った私は、馴染みのいい名をつけたかったのです。関西方言には「はる」という言い方があって、使い方もよく似ていますし、上記の1) 2) に比べるともう少し気軽に使えるという意味で、「お気楽な敬語」で「かんたん尊敬語」としてみました。

ところが、親の心子知らず、うちのクラスの学生には不評で「ちっとも簡単じゃない」と文句を言われます。きっと、動詞の活用形を作るのが難しいからなんですね。そして上述の如く「~てください」にはつなげないし、もうお気づきだと思いますが、受身形とまったく同じで、「一体どうして全く同じなの?」と、日本語教師でさえ答えようもない質問を投げかけてきます。

日本で営業職などについた私の学生たちは、あっという間にこの「かんたん尊敬語」を使えるようになります。もう少し私たちが存在を認めてあげてもいいですね。

■救急車の逸話

まだお話は続きます。私が信号待ちをしていた時、救急車がやってきました。するとその大きな交差点を右折しようとした救急車から、若い男性の爽やかな声が聞こえてきたのです。

「交差点の赤信号を右に曲がります。交差点内混雑しておりますので、恐れ入りますが、路肩に停車なさ

てください! 通過するまでこのままお待ちください! 信号をお待ちの歩行者の方は、緊急車両通過までもうしばらくお待ちください。交差点を通過いたしました。ご協力に感謝いたします。…」

ものすごく早口なのですが、車中から周りの状況を即座に判断して、このように話しているだろう救急隊員の皆様の、その鮮やかな敬語の言い回しに、私は、頭のとっぺんから芽が出て花が咲いてしまうほど感動しました。

■スタイルを変えること

また拙著の話で恐縮なのですが、ここには「敬語スタイル」「ですますスタイル」「友達スタイル」と言う言い方が出てきます。

詳しい説明は省きますが、私たちは話している人との関係や、状況で判断して、この3つのスタイルを、巧みに切り替えたり組み合わせたりしています。

<ですます>では「あした、時間がありますか」でも、<友達>では「あした、時間ある?」となり、<敬語>では「あす、お時間おありでしょうか」となるなど、です。

私たちは、練習さえ積みめば、条件に合わせて即座にその言い方のバリエーションを切り替えることができます。学習者にはこの切り替えがとても難しいです。

最近、病院を舞台にした医療ドラマがよく放映されます。昭和の医療ドラマには「メス!」「縫合!」「消毒頼む」のような命令口調が多々みられましたね。でも、今のドラマでは、かなり緊急性の高い救急の場面でも、敬語を混ぜて使うようになりました。「メスを使います。ご準備ください」「縫合を開始いたします」「●●師長この部位の消毒をお願いいたします」上記の救急車の例も、もしかしたらこの辺を意識しているのかなと後で気が付きました。

この初級の文型「~てください」ですが、実は「お願い」のニュアンスはあまりなく、現在ではほぼ「指示」になっています。「タバコは喫煙所で吸ってください」「きれいに使ってください」など、かなりきつい言い方で、目上である教師に「推薦状を書いてください」とは本来は言えないはずです。

世の中は変わりました。上下関係が厳しい会社でも、上司が部下に対してぞんざいな表現を使うとそれだけでパワハラと言われるようになりました。昭和は遠くなりにつけていきました。部下を「おまえ!」と呼んで「これ、やっといてくれ」と乱暴に書類を投げつける上司の姿もまた昭和の遺物となったのかもしれませんが。職場の環境にもよると思いますが。

日本語社会の入り口に立っているうちのクラスの学生たち。目を白黒させて何度も言う練習をしています。今ある日本語の現実を十分に観察して、そこに付帯するこの日本語の文化を身に付け、自己実現につなげているんですね。

22年4月から、さらなるお引き立てをこうもって今度はNHK国際放送のラジオの番組で、日本語を中国語で解説する担当をすることになりましたが、そういう未来いっぱい夢いっぱいの、若い学習者を支えていけたらと考えています。



一般財団法人 東京都つながり創生財団

● <https://www.tokyo-tsunagari.or.jp>

東京都つながり創生財団（以下財団）は、東京都により令和2年（2020年）に設立され、都民一人ひとりが輝ける社会を実現するため、在住外国人支援などの多文化共生社会づくり、ボランティア文化の定着や地域の中核である町会・自治会等の支援など共助社会づくりを推進する事業に取り組み、地域コミュニティの活性化を図っていきます。



財団入口で

◎東京都多言語相談ナビ

東京都多言語相談ナビ（以下多言語相談ナビ）では、東京都在住の外国人からの相談に対応するほか、法律相談や通訳支援なども無料で実施しています。今年の5月23日からは「無料在留相談」が始まり、「在留資格」や「在留期間」などの相談にも対応しています。

●外国人からの相談

昨年は2400件の相談がありました。中でも、新型コロナウイルス関連やウクライナ避難民関連、通訳依頼の相談が特に目立ちました。14言語で対応していますが、やさしい日本語での相談が一番多く、英語、中国語と続きました。

匿名相談のため、相談者の滞日期間は聞きませんが、滞在年数により、相談内容には違いが見られます。

「最近来日して、街を歩いていると、皆がまだマスクをしているのに驚いている。マスクをつけることは任意なのに、多くの日本人がマスクをしているのはなぜか。」という質問が相談窓口にありました。このような質問は滞日期間が長くなるとなくなります。

外国人の相談内容には様々な問題が絡み合い、簡単には解決できない相談もあります。その場合には、時間をかけて話を聞き、困っていることを明確にし、適切なつなぎ先を案内できるように努めています。

●ウクライナ避難民への施策

最近のウクライナ避難民の増加にともない、多言語相談ナビは「ウクライナ避難民ワンストップ相談窓口」を開設しました。東京で安心して生活できるようにあらゆる相談に対応しているために、住宅や生活に関する相談が多数あります。東京都内に住んでいるウクライナ避難民は約260名で、都営住宅に入居している避難民は6月20日時点で77組142名です。

避難生活が長期化するにつれ、日本での就労が避けられない問題になります。しかし、日本の資格取得や、日本語という言葉の壁の問題があるために、国でのキャリアを活かしきれないケースも考えられます。そのために、希望の職業が見つかるように、ウクライナ避難民を雇用する準備がある企業・団体などの情報を財団が運営するポータルサイトにまとめ、提供しています。ポータルサイトには、仕事を探している避難民のための相談窓口も掲載しています。

●今後の課題

東京に来る避難民はウクライナ人だけではなく、既に、ミャンマー人やウイグル人なども避難民として、東京で生活しています。上記「ウクライナ避難民への施策」ほどではないとしても、外国からの避難民支援はますます必要とされるでしょう。「多言語相談ナビ」の存在をいかにして知ってもらうかは重要な課題です。

また、新型コロナウイルスやロシアのウクライナ侵攻による生活不安など、私達を取り巻く環境は日々、変化しています。そのような中で、常に的確で新しい情報を外国人相談者に提供できるようにしておくことも課題の一つです。

◎財団が実施している事業

●東京都多文化共生ポータルサイト

東京に住む誰もが安心して暮らせる「多文化共生社会づくり」をサポートするサイトです。

・Life in Tokyo…東京での生活習慣など、動画で見ることができます。

・やさしい日本語普及啓発…やさしい日本語についての情報があります。

●東京ボランティアレガシーネットワーク

ボランティアに参加したい方、もっと知りたい方→ ユーザー登録してください。

●まちの腕きき掲示板

得意を生かして地域の役に立ってみたい“腕き



職員の方々



説明を受けるTNVN一行

き”のみなさんと町会、自治会のみなさんとおつなぎします。今年度は、中野区、三鷹市、町田市、八王子市、清瀬市、稲城市と連携してプロジェクトを実施中です。

●東京日本語教室サイト

- ① 日本語を勉強したい外国人等は、東京にある日本語教室・子どもの日本語教室を探すことができます。

外国語で相談したい人は、多言語相談ナビに電話してください。

- ② 日本語ボランティア活動を始めたい人は、日本語教室サイトでボランティアを募集している教室を探してください。



ありがとうございました！

5月16日、TNVN一行は、都庁ビル隣の新宿NSビル8階にうかがいました。

とても広い部屋に、担当ごとの列が何列も並び、大勢の方たちがきびきびと働いています。特に女性の姿が目立ちます。東京都は進んでいる！と嬉しくなりました。(林川)

月曜日の午後、「多言語相談ナビ」のブースでは、7名のスタッフが、各々パソコンに向かい待機し、ヘッドホンで対応していました。百聞は一見に如かず、この様子を多くの人に知らせたいと思いました。(仁村)

ゆったりとした場所に移転し、今、大きく活動の幅を拡げた財団になっても変わらないことは有能な職員の方々の存在です。熱意溢れる真摯な仕事ぶりを拝見し、励みとしています。(中山)

都在住の外国人向けの言語サポートやポータルサイトなど多方面に渡った支援を行なっている事を知りました。今後日本語ボランティアグループとの様々な連携が期待できると思いました。(鈴木)

多文化共生社会づくりを目指し、財団を設立されたことを評価しています。私どものような日本語学習支援ボランティア活動を長く続けている団体に対しても教室場所の確保など、より具体的な支援を期待しています。(渡辺)

これまで財団をネット上だけで見てきて、「れすぱす」など多文化共生サイトのコンテンツとの関連が見えにくかったのですが、今回の訪問によるご説明で納得できました。「隣人としての外国人支援」を長年実施している私達には、財団の活動に地域コミュニティへの支援も含まれているのが、心丈夫に感じられました。Look far, Act localですね。(山内)

財団での多岐にわたる取り組みは、国際都市東京が抱える諸問題に対応できると大いに期待しています。特に、私達のようなボランティア日本語教室では解決できない外国人の相談や悩みなども「多言語相談ナビ」によって解決できると確信しました。(小野)

※都内で活動するボランティア日本語教室の皆さん！

東京日本語ボランティア・ネットワーク（TNVN）は、「ボランティア日本語教室ガイド東京」で250以上の教室を紹介し、日本語学習を望む外国人等に活用されています。そして、この度、新たに「東京日本語教室サイト」ができました。外国人等にとっては勿論のこと、日本語教室にとっても紹介する「場」が増えました。この「場」を有益なものにするために、皆さんの積極的な関わりが必要です。未掲載の教室は、「お問い合わせ」から「掲載希望」と申し込んで、外国人等のために選択肢を増やしてください。

●第29回定期総会ご報告

一向に退散しない新型コロナウイルスの影響で、第29回定期総会もグーグルフォームを使って、書面議決を81団体にメールで送信し、また、5団体にはハガキで、議決表明をお願いしました。今回で非対面総会は3回目となりますが、執行部がなかなか慣れず、不手際がありましたこと、お詫びします。

しかしながら、86団体の過半数49団体からご回答をいただき、全ての議案に三分の二以上の賛成を得ました。ありがとうございます。

これから1年、下記メンバーでTNVNを一所懸命、引っ張ってまいりますので、ご理解とご協力をいただけますよう、よろしくお願いいたします。

●2022年度役員・運営委員・スタッフ

◎役員

代表	林川 玲子	ビバ日本語教室（港区）
副代表	神 歩	グッドナイト日本語教室（江東区）
	山形美保子	LTC友の会（杉並区）
事務局長	岡田美奈子	やさしい日本語（江東区）
会計	矢崎 理恵	社会福祉法人さぽうと21（品川区）
	岡田美奈子	やさしい日本語（江東区）
監査	山内 眞理	多摩市国際交流センター日本語セミナー部（多摩市）

◎運営委員

大野 敏宏	すみだにほんごボランティア21（墨田区）
小野美恵子	グッドナイト日本語教室（江東区）
坂本 弘一	かけはし（足立区）
坂本 英樹	NPO法人IWC国際市民の会（品川区）
鈴木 恵司	スペース・アイ（渋谷区）
中山眞理子	NPO法人多文化こども自立支援センター（中野区）
仁村 議子	NPO法人IWC国際市民の会（品川区）
三浦 幸男	こんにちは にほんご（練馬区）
渡辺 紀子	まちだ地域国際交流協会（町田市）

◎スタッフ

大滝 敦史	在宅 HP管理
小林 薫	日本語サークル「わかば」（世田谷区）
床呂 英一	まちだ地域国際交流協会（町田市）
松川 彩子	在宅 やさしい日本語（江東区）

会 員 団 体 紹 介

Nice to Meet You

■支援者の援助も

明正日本語会（世田谷区）

代表 勝本 真理子

私達「明正日本語会」は、10年以上前から世田谷区の成城、砧地区で活動しております。日本語を教える方法は基本的に“直接法”で媒介語を使わず日本語で日本語を教えています。

現在、支援者は、近隣の方を中心に20名程活動いただいています。他方、学習者は、アジアを中心に、米州、豪州国籍の18名程が活動しています。基本的に、教室で1対1の対面活動ですが、諸事情からオンラインで授業をしているペアもいます。学習者の学習目的も多様で、教室では決まったプログラムはありません。



また、昨今のコロナ禍で、特に学習者の応募が少なく、対応に苦慮していましたが、最近は入国制限緩和のおかげで少しずつ応募数も増え始め一息ついていきます。

今後の課題としては、日本語指導経験が無く不安に思っている支援者を援助していくことがあります。幸い支援者の中には、“日本語教育能力検定試験”に合格し、実際教壇に立っている方もいるので、その方の協力を得ながら支援者の援助をしていけたらと思っています。



東京日本語ボランティア・ネットワーク（TNVN）は都内のボランティア日本語教室のネットワークで、会員からいただく会費で運営している民間の団体です。会員は日本語学習支援活動を通して、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人を、隣人として支援しています。又、TNVNは会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

◆日時：毎週金曜日午後2時～4時
第5金曜日／休み

◆場所

東京ボランティア・市民活動センター
JR、地下鉄（東西線・有楽町線・南北線・大江戸線）出口B2b 飯田橋駅下車
セントラルプラザビル 10F ロビー

◆日本語ボランティア相談窓口

日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフがお応えしています。メール・電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにもお応えしています。ご意見もお待ちしています。

〒162-0823

東京都新宿区神楽河岸1-1

東京ボランティア・市民活動センター
メールボックス No.4

◆TEL：03-3235-1171

（呼出：金曜日活動時間帯のみ）

◆FAX：03-3235-0050

◆E-mail：office@tnvn.jp

◆URL：https://www.tnvn.jp/

◆郵便局払込

口座番号：00100-1-719259

加入者名：東京日本語ボランティア・ネットワーク

◆会員数（2022年7月22日現在）

正会員：86団体

個人協力会員：15名

賛助会員：5団体

◆編集／大野 敏宏、岡田 美奈子、小野美恵子、床呂 英一、仁村 議子、林川 玲子、山内 眞理

◆レイアウト／美巧社